

「国道2号大野地区沿岸部防災対策検討協議会」について

● 目的

昨今の相次ぐ大型台風の来襲により、広島国道事務所管内においても、越波・高潮などによる沿岸部国道の部分崩壊や全面通行止めの被害が発生しています（廿日市市丸石～大竹市玖波間では今年度の台風13号を含め過去3年連続）。
今後も同様な越波や高潮被害の発生が予想されることから、本協議会では関係自治体の道路・海岸管理者や学識経験者、さらには地域住民が一体となって、沿岸部における具体的な防災対策（越波対策）を検討し、地域の防災力を一層強化していくことを目的とし、協議会を設置し検討を進めているものです。

● 第1回協議会(H18.10.4開催)の検討概要



● 護岸の対策工法の抽出や、整備水準等の比較検討

● 第2回協議会(H18.11.30開催)の検討概要



- 有力な対策工法（前面消波ブロック式、フレア式護岸等）の比較検討
- 感性工学手法を用いた景観検討

～以下、第2回協議会における主な協議結果～

- 越波対策の構造については、景観や海浜利用について配慮されているフレア式護岸が望ましい。
- 地元の地域を対象とした感性アンケート結果として、フレア式護岸の好感度が高い結果となった。
- フレア式護岸整備を基本とした場合の、性能（越波の有無）について次回（第3回までに）水理模型実験を行う。



第2回協議会の様子

● 第3回最終協議会の検討内容(予定)

第2回協議会で有力候補として選定された“フレア式護岸”について、水理模型実験結果を紹介し、今後整備すべき対策工法の基本構造について検討する。

フレア式護岸を整備した場合に利用可能となる歩道部（フレア式護岸上部を利用）についての検討・整理。

越波対策を行う場合の施設整備上の配慮すべき事項等についての検討・整理

今後の取り組み内容について

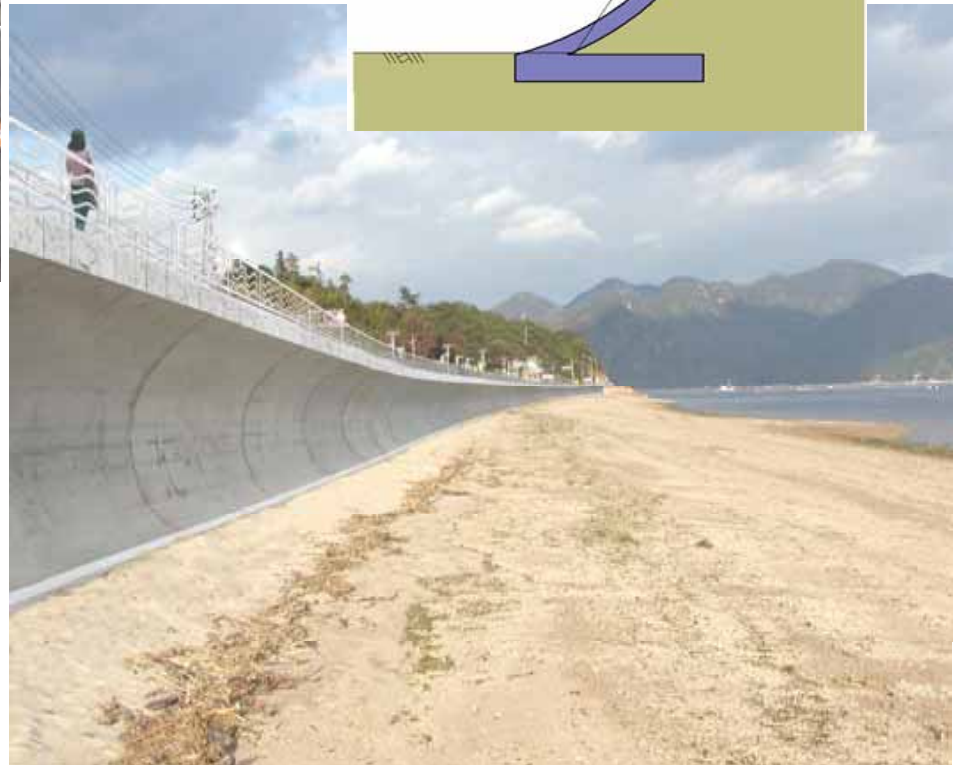
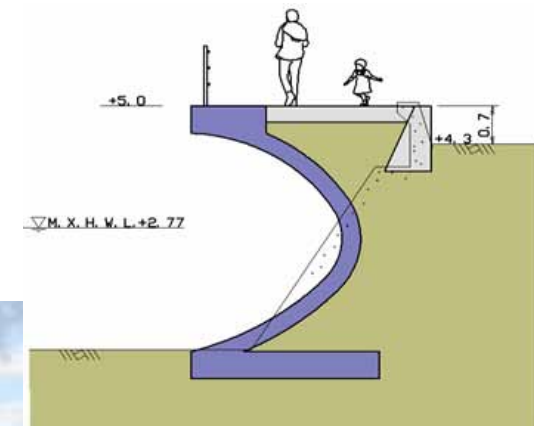
■ 感性アンケート結果

参 考

感性アンケートで好感度が高い海岸線イメージ



フレア式護岸の断面図



- 調査対象
国道2号 大野・玖波地区
- 調査期間
平成18年11月2日～11月10日
- 調査票回答数
有効回答数 122通(回収率約75%)

国道2号大野地区沿岸部防災対策検討協議会 名簿

【敬称略】

所 属 ・ 役 職	氏 名
広島大学 大学院工学研究科教授	つち だ たかし 土 田 孝
広島工業大学 大学院環境学研究科助教授	わき た よし ひさ 脇 田 祥 尚
広島県広島地域事務所建設局 廿日市支局 事業調整員	た なか えい じ 田 中 英 治
廿日市市 総務部防災安全室長	たけ もと あさ ゆき 竹 本 朝 幸
廿日市市 建設部 次長(兼)土木課長	はら だ ただ あき 原 田 忠 明
廿日市市 大野支所長	しら い やす ひろ 白 井 安 洋
廿日市市 大野支所 管理課長	しん どう いく じ 進 藤 育 治
大竹市 土木課長	か や こう じ 賀 屋 幸 治
国道情報連絡員(国道2号)	うえ まつ さかえ 植 松 栄
大野丸石地区(9区)副区長	かた やま みのもる 片 山 稔
大野鳴川地区(10区)区長	こ くま つる お 小 熊 鶴 雄
大野地区沿岸住民	おく しん かず し 奥 新 一 四
おおの瀬戸ビューロード会長	まさ る かず お 正 留 和 男
大竹市玖波地区自治会連合会長	やま さき よし たか 山 崎 義 孝
大竹市玖波3丁目自治会長	なか むら ゆく むつ 中 村 行 六
国土交通省中国地方整備局 広島国道事務所 管理第二課長	かま た ゆう すけ 鎌 田 裕 介

(事務局) 広島国道事務所 管理第二課